

物流センター構想について

物流センター(仮称)に関するワーキンググループ

委員長

富永 真琴

はじめに

平成十六年四月の大学病院の独立行政法人化への移行に備え院内では準備に関する論議が行われているが、物流センター(仮称)の設置もその一貫である。他の事項と同様に物流センターも院内の多くの方々のご理解とご協力を得て実現できるものであろう。現在までの議論のあらましを述べたい。

物流センターとは

病院も一つの企業体であり、診療に必要な物品(医薬品、医療材料、その他)の購入、在庫、消費について、その動きを正確に知っておくことにより財務状況とその改善策を検討しうる。物流センターはその中心的役割を担うものであり、その機能は次の3つである。

(1) Supply(補充) 物品の購入に関すること、(2) Processing(加工) 物品が病棟など

使用部署に使いやすいように小分けなどを行うこと、(3) Distribution(分配) 物品を使用部署に供給すること、である。物流センターはSPDセンターとも称される。

なぜ物流センターが必要か
一言で言えば医療提供機能の強化のためである。具体的には安全管理と経営改善のためである。

Supplyに関しては、例えば、現状で医療材料は材料部で購入しているものと病院第一係で購入しているものがある。病院第一係で購入しているものは各診療科などから請求され、使用部署に直納されている。その在庫管理は看護師にまかされている。これは看護師本来の仕事ではない。同じような物品が各診療科ごとに在庫されているので過剰在庫になつていて可能性があらうし、各部署間で在庫

管理の情報がなく、相互に融通しあうこともない。一元的な購入在庫管理が安全管理から健全経営からも必要である。

Processingに関しては、現在材料部から供給される物品はカード方式による定数配置を行っており、これは優れたProcessingと評価できる。しかし、救急カートの整備は病棟などにまかされてお

り、これも看護師本来の仕事ではない。手術に関しては術式に応じて、手術部の看護師が医療材料を用意している。これも看護師本来の仕事とは言えないであらう。Processingは不十分である。Distributionに関しては、例えば、カード方式による現状のやり方は優れているが、使用した物品がどの患者に使われたかの情報を全く把握していない問題点がある。請求もれの可能性がある

し、医療行為の原価計算を不可能にしている。これは処置オーダーリングとも関連するが、物品の動きを把握することによってこれらの問題を解説しうる。

山形大学病院の物流センター構想

物流センター検討WGでは図に示すような基本構想を中間報告で提案した。Supplyに関しては一元的な購入を行う。Processingは従来のカード方式に加えて救急カートを全病棟で標準化しいつでも使える状態に準備することと患者限定手術セットを整備することを新たに行う。Distributionとしては病棟に供給することであるが、使用物品に関する情報は処置オーダーリングとリンクすることとしている。これらの物品の動きは一三桁のJANコードのバーコードシステムで管理することとしている。

おわりに

物流センター検討WGは平成十五年四月から倉智教授を委員長とする新たな体制で再スタートするが、今後ともご理解とご協力を切に望むところである。

治験管理センター紹介

治験管理センター副センター長

東海林 徹

1. 治験管理センターの概要

平成十二年(二〇〇〇年)十二月に治験管理センターが院内措置として設立されましたが、実際の稼働は二〇〇一年四月でした。設立の目的は、新GCP(Good Clinical Practice)に基づいた臨床試験の実施であります。新GCP下において臨床試験を実施する場合、責任医師および分担医師に対する責任の所在を求めていますので、責任医師および分担医師に協力する専任者が必要となります。その専任者を治験コーディネーター(Clinical Researcher)と呼びます。

2. 治験管理センターの役割

先に述べましたように、臨床試験が新GCPに基づいて円滑に実施されるようにセンターが設立され、CRCが具体的な業務に当たります。CRCは、治験全般をコーディネートします。と言ってもCRCの業務は、患者様の権利を守ることを第一としており、患者様が外来にお見えになった時から、会計を済ませるまでCRCが同行します。その上で治験責任医師

h Coordinator(ORCC)と呼びます。二〇〇二年四月の段階では、センター長は病院長が兼務していましたが、二〇〇三年四月からは、大谷浩一精神科神経科教授が任命され、新体制になりました。二〇〇二年十月からは財政面での管理のために山下英俊副院長が治験管理センターのスタッフに加わりました。副センター長は私が薬剤部と兼務し、業務に当たり現在に至っております。治験管理には薬剤部長が委嘱され薬剤部で管理しております。

3. 治験審査委員会の事務局としての役割

4. 他部門との連携

治験管理センターと薬剤部との連携は、治験薬の管理の責任者が薬剤部長であります。CRCが病棟や外来で業務を遂行する場合には、看護部との連携が重要です。また、事務部門との連携は治験管理センターの運用に重要であります。

5. これからの活躍に期待してください
治験管理センター設立から二年が経過しました。全国国立大学病院では設立が遅いほうです。とにかく他施設に劣らないセンターをという思いで頑張つてまいりました。そのためにはCRCの質の向上が必要と思ひ、二年目には、自ら業務の整理とこれからの目標を考えてもらうために学会で発表させました。そして、CRCは全てをコーディネートする立場ということを院内にアピールする目的で、院内セミナーをも開催しました。そういうわけで、やっとCRCの存在が定着しました。CRCのこれからの活躍にぜひ期待してください。



山形大学医学部附属病院と 県内法曹関係者との 意見交換会を開催

山形大学医学部附属病院は、医療訴訟に対し迅速かつ的確な対応を図ることを目指し、山形地方裁判所及び山形県弁護士会との意見交換会を去る4月23日に開催した。これは、山形地方裁判所からの申し出により、山形県内における医学会と法曹界が自由に意見交換できる場として実現したものである。

当日は、裁判所から13名、弁護士会から10名、病院側から嘉山病院長他約20名が出席し、法曹関係者が実際の手術や他の医療現場を視察した後、会議室において医療訴訟の現状や鑑定制度等について説明を受け、実際にあった訴訟等を例に問題点の指摘や提言を出し合い、活発な意見交換が行われた。

次回は、山形地方裁判所において開催される予定である。



編集後記

山大病院ニュース第4号をお届けします。山形大学病院にはこのころ明るいニュースが続いています。とくに病院を構成する人材の活動がきわめて社会的に評価されているということが分かります。今年の福岡市で開催された日本医学会総会でシンポジストとして、嘉山孝正病院長、深尾彰教授（公衆衛生・予防医学）、木村理教授（消化器・一般外科）の3人がノミネートされ、発表されました。山形大学医学部のfacultyの一員として本誌に誇らしく、すばらしいことと考えます（発表の内容は本紙次号で紹介いたします）。また、春の叙勲

で放射線部前技師長の加賀勇治様が勲五等瑞宝章を受章されました。長年のためない大学病院に対する御尽力が認められたものと、このころからお祝い申し上げます。大学病院の建物の最上部に掲示されていた表示が「山形大学附属病院」となりました。病院の活動は日進月歩の現代医学をリードしていると自負しておりますが、その入れ物が新しくなることはやはり気分もかわりいいものです。今後あたらし時代への要請に対して、SARS患者さんへの対応、テロ対策病院としての機能整備などをこくめ、病院長の強いリーダーシップのもとに迅速に対応できる活動度と柔軟性の高い大学病院活動を展開する予定です。どうぞ御期待下さい。

発行所 山形大学医学部附属病院
〒990-9585 山形市飯田西2丁目2-2
TEL 023 (633) 1122 (代)
「山形大学病院ニュース」編集委員会
編集委員長 山下 英 俊
事務担当 総務課庶務係 連絡先 TEL 023 (628) 5006
印刷所 坂部印刷株式会社

平成十五年春の叙勲
の受章者が発表され、
本院関係者では次の方
が受章されました。

前医学部附属病院放射
線部診療放射線技師長
加賀 勇治
勲五等瑞宝章

受章

おめでとうございます
ございます

春の
叙勲

安全対策

安全対策の標語について

ジェネラルリスクマネージャー

中野 栄子

- 患者さんに安全な医療サービスを提供することは、医療の最も基本的な要件の一つであり、医療機関においては、医療安全に関する職員の意識啓発をすすめるとともに、医療安全を推進する組織体制を構築していく事が求められています。
- このたび厚生労働省から、「安全な医療を提供する為の十の要点」として標語が提示されました。
- この標語を参考にそれぞれの医療機関がその特性などに応じてより具体的な標語を作成するよう指導があり、本院では、安全標語の公募を行ったところ、二六の部署から十項目にわたり二六〇点以上の応募がありました。
- 医療安全管理部構成員が厳正に選考を行った結果、次の作品が優秀標語として選ばれました。
- ①（安全文化）
知識と技術
活かして作る
安全文化
（10西）
見逃しません
あなたの表情・・・
 - ②（対話と患者参加）
あなたの表情・・・
 - ③（問題解決型アプローチ）
私の経験
あなたの教訓
みんなで共有
次へ生かさう
（5西）
 - ④（規則と手順）
マニュアルは
安全のための
道しるべ
 - ⑤（職員のコミュニケーション）
広げよう
みんなの和
乗り越えよう
部門の壁
（8東）
 - ⑥（危険の予測と合理的な確認）
「何か変」と感じる感性
大切に
 - ⑦（自己の健康管理）
看護する
私の健康
まず基本
（9東）
 - ⑧（技術の活用と工夫）
技術と工夫で
防ごう
医療事故
（放射線部）
（9西）
 - ⑨（与薬）
患者と薬と処方箋
三つそろえて
再確認
（4西）
 - ⑩（環境整備）
整理整頓
事故防止への
第一歩
（薬剤部）
また、病院長賞、看護部長賞及び事務部長賞として栄誉に輝いたのは次の作品です。

①テロ対策病院について
病院再開発の特徴としてテロ対策（化学兵器、細菌兵器）への対応を山形県と連携し、進める。

②病院電子カルテ化について
電子カルテの導入に向けて本格的に検討する。

③ISO取得に向けた準備状況について
取得するために積極的に取り組んでいく。

お知らせ

4月15日に開催の病院戦略策定委員会の記事要旨は以下のとおりです。